

広報



しらす



ハッスルプレーが続出し老人・ウーマンパワーの底力をみせつけました

と高まる住民スポーツ

―村民室内運動会―

スポーツ、レクリエーションを通じて、心身の修養とコミュニティ社会の形成をはかろう―と、一月十七日午前九時からB&G財団市浦海洋センターに村民約五百人が参加して、第一回村民室内運動会が開かれ、数々の珍プレーやハッスルプレーが続出し、会場は笑いと大きな拍手でわきました。

〔関連記事五面に〕

昭和57年

1月号

希望に満ちた 活力ある村づくりを推進



本村の稲作は、冷害克服への願いもなしく作況指数は「43。半作にも満たない状態でした。」

二年続きの冷害で、昨年は予想以上に厳しく、試験の年でありましたが、半年、長年の念願であったB&G財団市浦海洋センターの竣工や、第三期山村民衆地域の指定を受けるなど、明るいニュースもありません。

明るく豊かで活力のある村づくりを目指して、こしは過疎対策と山村振興計画に基づき事業を中心に進めたいと考えております。その主な事業としては、「コミュニティセンターを完成させる」

昨年八月、B&G財団市浦海洋センター(体育館)が隣り合せて完成しており、両施設を廊下で結ぶことにより、スポーツを通じての体力、健康づくりと、研修や対話を行う場が系統的に整備されることになりました。

効率的で

無駄のない行政を推進

村長 白川 治三郎

コミュニティセンターはまた、冠婚葬祭の簡素化にもつながり、明るく活力のある村づくりの拠点にもともなっています。

老人生きがいセンターの建設

高齢者対策の二環として、老人生きがいセンターの建設



村民各位におかれては、それぞれ目標にむけて決意も新たにご来られていることと思います。私もまた、思惑を新たに、豊かな村民生活実現のため微力を傾けたいと考えております。

昨年のおが村は、基幹産業である農業が水田利用再編対策に伴う減反が余儀なくされている中で、異常気象による二年続きの凶作にみまわれ、大きな試練に立たされたものと、台風十五号の影響で、

を予定している。

本村では、六十歳以上の老年者が七百十三人(五十七年一月二十日現在)に達し、総人口の一七・二%を占める状態となっており、高齢化社会への対応が急務となつてきている。お年寄りが気軽に集まってくれりエーションや工

住民ニーズに

即応した議会運営を

議会議長 小倉 十三男

浸水家屋や堤防決壊などの被害を受けたのに加え、漁業不振や経済不況による出稼者への雇用不安定など、本村の経済に与えた影響は極めて深刻であり、その対策に苦慮した一年でありました。

一方、B&G財団市浦海洋センターの竣工やコミュニティセンター建設工事の着工など、明るいニュースも数多くあります。

海洋センターについては、開館以来、効果利用を図っているが、今年度コミュニティ

芸等を楽しめる老人生きがいセンターを臨元地区に建設したいと考えています。エネルギー基地の誘致も働きかけ

本村は、地形、地質等の条件がエネルギー基地建設に最適だとされていることから、エネルギー基地を誘致すべく働きかけを積極的に行い、国・県の施策として採択されるよう強く要請してまいりました。

効率的で無駄のない行政を

進める。行政改革については、まだ内容がはっきりしていないが、地方自治体の財政の根柢にかかるとのことであることが予想され、村財政も一層厳しくなると思われ。今後は以上以上に村民とともにその対応策を考え、経費節減をはかり、効率的で無駄のない行政を進めなければならないと存じております。

村民各位のご指導とご協力をお願い申し上げます。

つとして、将来、その手腕に大きな期待が寄せられるところでもあります。

センターの完成により、これらの施設は一体化されることになり、スポーツや文化交流の場が層整備され、活力あふれる村づくりの基盤となることと存じます。

国、県に誘致誘致については、また、海に対して精力的に運動を展開し、その成果がまたれることと存じます。

さらに、公共育成牧場は、土地取得費の議決がなされ、今年度より本格的に着手されることになり、村の産業基盤の根柢をなす事業の一

このように、村政の大きな懸案が着々解決できましたことは議会の熱心な審議もさることながら、村民各位の暖かいご支援と熱意のたまものと深く敬意を表するものであります。

今後、村民生活の安定や福祉向上のために、政の基本理念に立ち、真に責任を持つ分野を的確に見きわめながら地域社会のニーズに即応した議会運営をはかりたいと存じております。

村民各位の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

心ゆらして歩もう

健康へのみち

健康で安心して生活できる
明るく美しい村の実現を
昨年十二月十八日、基幹集落
センターで、市浦村共同保健
計画会議が開かれました。

この会議は、予算編成を前
に、新年度の保健衛生行政の
在り方を話し会おうと毎年こ
の時期に行っている気構えを、
会議には、五所川原保健所を

はじめ、村内各学校、体育協
会、老人クラブ、婦人会など
関係機関団体の代表約五十人
が出席し、村ぐるみの健康づ
くりへ意見を交換しました。

このあと、環境衛生部門、
保健衛生部門について、グル
ープ討論が行われ、空き缶公
害を含めたゴミ処理や、成人
病対策などについて、活発な
意見が交わされました。

そして最後に、葛西安十郎
民生課長が「保健衛生の推進
をはかるため、寄せられた意
見を行政に反映させていきたく
いと思う。また、住民一人一人
の意識高揚を目指して、粘り
強い活動が続けていこう」と
締めくくりました。

環境美化の推進と

検診率のアップを

会議ではまず、白川村長と
桜庭五所川原保健所長が「自
分の健康は自分で、そして自

分が住む村を、自分たちの手
で守りきれいにする気構えを
持とう」とあいさつ。片山派

遣社会教育主事の司会で、「心
ゆらして歩もう、健康への道」
をテーマに話し合いが行われ、
十三地区衛生組織代表の小山
あぐりさんが、「環境美化直
言をしてから」また、武田紀

子五所川原保健所保健婦主任
が「環境器健診の実態から感
じたこと」と題してそれぞれ
意見発表をし、美化運動に寄
せる心と、検診率のアップに寄
訴えました。



環境・保健衛生について活発な意見
交換をしました

冷害を吹き飛ばし

ことしこそは豊作を

桂守会で新年会



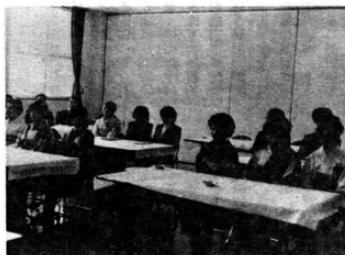
しめりがちな気持ちを捨て今年こそは豊作を—と語り
あう桂川地区住民

桂守会（桂川を守る会）大
沢良（会長）では、地区での
虫祭りや環境整備、美化運動
を積極的に進めています。こ
のほど、地区公民館と共催
して「冷害をおとばそう」
と新年会を開きました。

いつもより出発時期を早めた
出かせぎ者も増えていたこと
から、正月休みで一時期郷郷
した人々を囲んで新年会を開
いたのです。

新年会には、白川二郎村
長も来賓として出席し、桂守
会の活動を激励していました
が、集まった人たちは「冷害
でしめりがちな気持ちを吹き
飛ばし、今年こそは豊作を—
と意気盛んに語りあっていま
した。

農業収入が減少したことによる
夫婦での出かせぎ……。



出席者の少なかった成人式...でも、大人になった喜びをかみしめていました。

自覚を胸に 大人の仲間入り

出席者

わずか十二人

成人の日の十五日、県内では二万一千五百五十二人が大人の仲間入りをし、それぞれ新成人の門出を祝いました。本村でも、男性十八人、女性が二十一人の合わせて三十九人が誕生し、一月十五日基幹集落センターで成人式を行いました。

式典では、後谷佐之一教育長の式辞に続いて、白川治三郎村長、小倉十三男村議会議長、佐藤佐吉選管管理委員長らが次々祝辞を述べたあと、新成人一人一人に記念品が手渡されました。

このあと、来賓を開んで和やかに懇談会が開かれ、こじんまりとした式典の中にも大人になった喜びをかみしめていました。

今後とも成人式への出席者が減少することが予想されることから、教育委員会では、夏の成人式、や式典の内容、方法等についても検討することとしています。

新年の豊作・安全祈り



大しめ縄福俵の奉納は毎年続けられている。

「大しめ縄福俵」
を奉納

年の瀬も押し迫った十二月三十日、脇元洗磯崎神社(松橋徳夫宮司)に大しめ縄福俵を奉納し、家内安全、無病息災、大漁豊作を祈願しました。

大しめ縄福俵を奉納したのは、成田勲さんら二十人の有志一同で、三年前から行っており、毎年この時期になると、四、五人が集まって十日間かけて脇元地区一年のしめくりにて編みあげられるもので、今度の行事となつていきます。

この日も、大しめ縄福俵を担ぐ若者を先頭に小馬踊りが部落内を練り歩き、洗磯崎神社前の大鳥居に慎重に取りつけ新しい年にそなえました。

昭和五十九年には、洗磯崎神社も草創三百年を迎えることになり、協賛会も設立され、祭典準備が進められています。成田さんらは、祭典を盛り上げるためにこの行事を続けていきたいと話していました。

ひとこと

洗磯崎神社の

成田 勲



脇元の洗磯崎神社は、天和三年脇元の産土神として鎮座以来、昭和五十八年、草創三百年を迎えることになりました。そのため、地区在住志士により、洗磯崎神社三百年祭協賛会を設立し、地区あげて準備を進めているところ……。

脇元岩木山神社大祭、小馬踊りも年々盛りあがりみせ、若い人たちの中心計画が進められていることは、すばらしいことだと思つた。

村民一人一人が協力あつて物事に対処することこそ、明るく活力の村づくりにつながるのだと思つた。

昨年は、交通事故による死亡者が続出し、暗い一年でありました。ことしは事故のない明るい村づくりにつなげたい。洗磯崎神社草創三百年の記念すべき祭典を盛大に行いたいものだ。



①選手団入場して開会式
②ソレックスガンバレット
力が入る



③地区婦人会対抗の玉入れ
④みせつける奈良夫妻にカメラが
れノ
⑤思いきり押しつけられる風船が
かわいそう

珍プレーに ドツと笑い

家族ぐるみで 和気あいあい

この運動会は、B&G財団市浦洋センターの竣工を祝して、市浦村体育協会（山田勝明会長）が主催したもので、思い思いのスポーツウェアに身をかためた村民が続々つめかけました。

開会式では、山田勝明大会長が「村民の念願であった体育館が、B&G財団市浦洋センターの建設で実現されました。海洋センターの目標である「村民総体力、総健康、総幸福」をめざし、村民総ぐるみの利用と、スポーツレクリエーションを通じて村民相互の親睦とコミュニティ社会の形成をはかろう」とあいさつ。続いて来賓の依谷佐之（一教育長が選手を激励したあと、村元富弥村老人クラブ連合会長が「子どもからお年寄りにいたる村民ぐるみの室内運動会を精一杯楽しみ、村民相互の親睦と明日への村づくりのため力を合わせてがんばります」と力強く選手宣誓をしたあと競技に入りました。プログラムは、ドッジボール、輪投げ、バスケトリレ

1、ボール送り、センベイ食い、玉入れ、カッパルデードゲーム、風船割り、むかで競争、綱引き、スベシャルゲームなどにアイデアをとり入れたものが多く、幼児からお年寄りまで楽しく参加できる種目ばかり。

次々繰り広げられるユニモラスな光景に声援が送られる、勢い余つてしりもちをついたり、すべてでころんだりするとドツと笑いが……。そしてまた大きな声援と拍手がわき起る……。

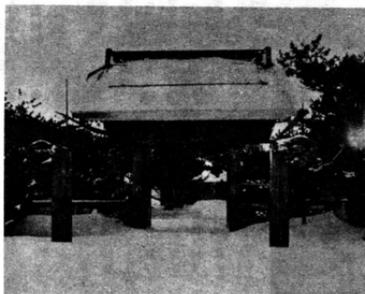
地区婦人会対抗の綱引きでは、最後の力をふりほつてか、顔が青ざめてくる婦人もみられるなど、こ一番にかける「ウーマンパワー」の底力をみせていました。



⑥スベシャルゲームに幼児も参加
⑦各種目ごとに表彰状と賞品が……



▶ 39 ◀



願龍寺

津波の被害
復興の希望

復興の希望

霊地を求めて

宇宙の森羅万象が一鳥井崎も、権現崎も、中山山系も、日本海も、羽空も一箇色に彩られる中で、とりわけ海と空とは美しく輝いて

いる七里長浜、その磯づたえを、足よりも軽やかに七宝の真砂をサクサク踏みしめ踏みしめ、十三湊を目指して歩んでいる一人の、若い旅僧の姿がありました。黒染の衣の襟も長路の旅の汗にまみれ、足の草鞋もやや切れかかり足袋も緩びかけ、見るからに働々しくみぼらしく感じられましたが、二三歩進む毎に称え、南無阿弥陀仏南無阿弥陀仏の六字の名号のお声は清法師の、無限の木霊を胸に秘めた、ふくよかなもの

に聞かれました。旅僧の名を雪典といいますが、彼は佐渡国相川城下の大間町の願龍寺の長男として生まれましたが、青年に達するとともに発心して、親鸞上人の真宗を弘布しようと、弟に願龍寺を譲

仏閣建立

り、霊地を求めて日本海岸を北へ北へと布教し、七里長浜を通り、靈感を覚え、十三湊に留錫して町民の教化に当たろうと足を運んでいたのでした。実に慶長元丙申年(西暦一五九六、今から三八七年前)の三月下旬のことでした。

雪典法師が、佐渡屋太郎兵衛の門をたいたのは、それから一時(今の二時間)後のことでした。十三湊に迎り着いた雪典法師はおそ

らく同国佐渡出身の家を尋ね廻り、ようやく見当たれたものと思いきや、主人の太郎兵衛は職治職をして、弁財船を運る金具を一手に引き受けていて、指折りの富家であったので、佐渡出身の雪典法師の訪問をたいへん喜んで優遇し、夜を徹して故郷の物語を楽しみ、雪典相川の仏閣建立の計画を聞くや土地の提供および浄財の奉加を約束したということでした。開山雪典法師は八十一歳で入寂し、十三(広範囲の地域)の人々の教化に貢献した高僧です。

住して来た者は草鞋を大佐渡屋に脱いで、土地を分けもらい職業の世話をしてもらったというところで、屋号を小佐渡といいますが、相川多兵衛家、願龍寺の角屋敷)がその家です。

大佐渡の尽力によって、願龍寺の最初の寺(規模の小さな金庫であったとしても)が建立されました。慶長元年四月一日(新しい四月二十八日)に竣工されています。

相川姓は
願龍寺の權徒

こんな事情から現在の相川姓を名乗る家は全部願龍寺の權徒になっているわけです。明治になって一般庶民も姓を名乗ること許されてから先祖の出身地の佐渡国相川姓を取ったんです。願龍寺の住職は、相川町字大間町の大間を姓とし、山号を漆染山と称し、十三湊の繁栄を祈願したことは前述しました。開山雪典法師は八十一歳で入寂し、十三(広範囲の地域)の人々の教化に貢献した高僧です。

津波のこわら
けの部

甚なしの大膽い、器用なことはできないが、食うことだけには人に負けない、そんな人をののしったことは、甚任身を助ける、身についた芸があれば、いざという時に、暮しの助けになろうという意。

下戸の建てたる腹のない酒を飲まないから言つて、その分貯まるものではないという意。

下駄預ける 一任すること、難題を承知で、うまく処理してくれという意。
尻穴小さい 小心の意。男子だけに使う。
尻穴分銅 尻の重い人のこと。分銅は卒ばかりのおもり。
毛深い人は色深い 毛の濃い人は情がこまやかであるという意。
煙い方ア色男 男ぶりのよいいに煙がいくというシャレ。
現金 利害によつてその態度を変える人。
毛の生えた 何々に毛の生えた」という意、それより、少しましという意。
飢渴乞食 ききんの時の乞食のようだという意。

役場の電話は
2111番です

おしらせ

町内会長の選任方法が 変わりました

町内会長の選任は、村長が直接委嘱する形になっていましたが、12月議会で、町内会設置条例の一部が改正になり、4月1日からは「その町内会に属する行政連絡員の推薦に基づいて村長が委嘱」することとなりました。

村では、この条例改正を受けて、任期の残っている会長を除いて、新しい方法による会長の委嘱について、事務的に準備を進めることにしています。

住民税の申告は

2月15日から27日まで

昭和56年分の住民税（村県民税）の申告受付を次の日程で行います。

○申告に必要なもの

- ①印鑑
- ②医療費の支払明細書
- ③社会保険支払明細書
- ④生命保険掛金領収書
- ⑤その他必要と思われる明細書

または領収書

○申告受付日程

地区	日時	場 所
太田地区	2月15日～16日	太田公民館センター
十三地区	2月17日～18日	十三出張所
桂川地区	2月19日	桂川福祉センター
織原地区	2月22日	織原公民館
福元地区	2月23日～24日	福元出張所
相内地区	2月25日～27日	役場 会議室

いづれも午前9時から午後3時まで

※上記指定定期日に都合の悪い方は、3月15日まで役場税係までおいで下さい。

教育委員に工藤氏を再任



再任された
工藤礼一氏

亡くなった元委員の残任期間を就任していた工藤礼一氏の任期がこのほど切れましたが、12月定例会で議会の同意を得て、56年12月23日再任されました。工藤氏の任期は4年間。

交通事故の 相談は気軽に

被害者にも加害者にも大きな負担をもたらす自動車事故は、決して起こしてはならないものです。しかし、もし越えてしまつたら…そんなとき、信頼できる相談相手のないことほど心細いものではありません。

社団法人日本損害保険協会では「自動車保険請求相談センター」を設置し、強制保険・任意保険を問わず交通事故の解決方法等の相談に応じています。

相談は一切無料ですから、気軽にご利用ください。

＜開設場所＞

青森市長島2丁目10番4号（ヤマツビル8階）青森自動車保険請求相談センター ☎0177-22-1025番へ

＜相談時間＞

▷平日…9時30分から16時30分
▷土曜日…9時30分から12時

＝所得税確定申告 納税相談＝

五所川原税務署では、市浦地域の昭和56年分所得税確定申告納税相談を下記のとおり行います。

月 日	時 間	場 所
57. 2. 19	10:00～ 15:00	役 場

還付申告書はお早めに

税金の還付を受けられる方は、1月から受付をしております。早期に提出されますと、還付金も早く受取ることができます。

納税証明書への 請求はお早めに

各種の申請書に添付するための「納税証明書」の請求が、毎年2月から3月にかけて集中しておりますが、ちょうどこの時期は、申告所得税の申告と納税の時期にあつておりますので、署内は大変混雑し、証明書の交付がおくれるなど、ご不便をおかけすることにもなりますので、できる限り2月中旬か4月以降に請求されるようご協力をお願いします。

市浦村の人口と世帯

(57年1月1日現在)

人 口	4,273人
男	2,099
女	2,174
世帯数	1,114



村体育協会で計画していた村民室内運動会が、村民約五百人の参加で開催された。これが実現には幾多の困難もあつたが、まがりなりにも成功させた。体協の一員としてホツとしている……。

初めの経験で、準備不足や競技種目、競技進行等になると、参加者は何となく物足らなさも感じられたことと思う。

今後は、この大会の反省に立つてお互いが知恵を出し合い、村民相互の親睦とコミュニケーションの形成をはかるため、この種の大会を企画し、継続させることが必要だと考えている。

石岡 芳 幸



おしらせ

社教

シリーズ

生涯教育をわらわて

派遣社教主事 片山永繁

⑩

最近の社会教育に関する研究会で「子どもは学校にさえ行っていれば……という考えが大勢を占め、学校以外の地域活動への参加に対する考え、いわゆる子どもと社会参加思考が欠けていると言われている。

特に中学生期に入ると子ども



人々との出会い——人間関係は、まず「あいさつ」から始まると言っています。

あいさつは、人間関係をスムーズにする手段であると同時に、礼儀の基本となるものです。幼稚園から、あいさつがきちんとできるようにしつけたいものです。あいさつとか礼儀というとなにか形式ばった感じもしま

も会等への行事に参加しなくなり、高校生になると全く地域活動には興味も関心も示さない。

このような現状の要因は、子ども自身にも問題はあるだろうが、そこまで追いやった大人にこそ大きな原因があると思われる。

子どもたちの人間形成が培われる環境は、集団との係わり

り、自然との係わり、文化との係わりを中心とするものに大別できよう。

これらの係わりの中で行われる活動は、学校はもちろん家庭や地域が十分な認識をもたなければ成果は望めない。子どもたちが地域社会に関心をもち、社会的に寄与しようとする気持ちをもつことは、子ども時代のみならず、大人

すが、本来は、相手に対する「心の表れ」であり、それが一定の形になったもの——と言うことができます。

あいさつ

心と形の両面からしつけを

対する心——気持ち——を大切に、その表現としてある決まった形があることを教えるようにしたいものです。

校などへ通うようになると、友達同士の手shakeが増えます。いわゆる「ヨゴの関係」が生じてくるわけですが、あいさつのマナーも、年長者に対する場合は当然異なり

はじめ、祖父母、親類縁者など年長者との交わりがほとんどです。当然、年長者に対するあいさつがしつけの中心になります。

一方、保育園、幼稚園、学

になつてからも大切なことである。このため、子どもたちに奉仕活動の場を与え、社会的な役割を果たすことの意義を体験を通して理解させ、やがては地域社会に対する関心や愛着を高めるようにすべきである。それ故、特に家庭の理解・協力が必要であり、また親自らが進んで子どもと共に社会的活動に参加する姿勢が何よりも望まれることである、学校においても、社会参加を積極的に評価する取り組みが必要ではなからうか。

「おはよう」と「おはようございます」の区別など、相手が年長者が友達かによって、あいさつする時の表現や態度に違いのあることも明らかにするようにしたいものです。

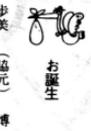
「おはよう」と「おはようございます」の区別など、相手が年長者が友達かによって、あいさつする時の表現や態度に違いのあることも明らかにするようにしたいものです。

「おはよう」と「おはようございます」の区別など、相手が年長者が友達かによって、あいさつする時の表現や態度に違いのあることも明らかにするようにしたいものです。

「おはよう」と「おはようございます」の区別など、相手が年長者が友達かによって、あいさつする時の表現や態度に違いのあることも明らかにするようにしたいものです。

「おはよう」と「おはようございます」の区別など、相手が年長者が友達かによって、あいさつする時の表現や態度に違いのあることも明らかにするようにしたいものです。

戸籍の窓



- 石岡 英洋 (脇元) 幸雄
- 三和 未央子 (相内) 貞
- 神崎 真生夫 (相内)
- 煤田 ひで子 (車力)
- 太田 聖 (名古屋)
- 山崎 美佐子 (桂川)
- 奈良 雄二 (太田)
- 秋田 谷睡子 (桂川)
- 三上 勝司 (車力)
- 工藤 妙子 (車力)
- 白川 智彦 (太田)
- 日比野 貞子 (岐阜)

おくやみ

- 三上 歩美 (脇元) 博
- 三上 寿 (車力) 幸弘
- 梶浦 邦 (十三) 裕行
- 武田 直寛 (太田) 精一
- 三浦 千明 (相内) 満治
- 鳴海 美佳子 (相内) 尚
- 高藤 律子 (脇元) 尚
- 高杉 真望 (太田) 孝男
- 三浦 勇太 (相内) 金行
- 越野 好晴 (十三) 勝美
- 佐藤 朝 (相内) 竹治
- 長利 有里子 (太田) 清一
- 梶浦 逸郎 (十三) 76歳
- 川口 みつ美 (相内) 55歳
- 澤田 スワ (磯松) 67歳
- 中井 千エ (十三) 81歳
- 三和 栄 (相内) 73歳

こんにちは赤ちゃん

米谷 幸三さん長男 (相内)
俊彦ちゃん (満1歳)

おやつがわりにソーセージでも、ノと思っているんだけど。ママにおこられるかなア……。

